

# 西別院 だより

## 降誕会号



小樽別院建立当時（大正二年十月八日撮影）

### 親鸞聖人 降誕会

五月二十一日はご開山親鸞聖人の誕生日です。

親鸞聖人は阿弥陀如来の真実のみ教えに出あわれ、九十年のその生涯を力強く生き抜かれました。

私たちが限りのある人生を悔いなくすごしてゆける道とは何でしょう。

それは親鸞聖人が一生をかけて求められた阿弥陀如来のみ教えに耳を傾け、一人一人がお念仏の教えをよろこぶ身とならせていただき、お念仏とともに自分の人生を生き抜いていくことです。

親鸞聖人がその一生をかけて示してくださるなければ、阿弥陀如来の真実のみ教えが私達に届くことはなかったでしょう。

その親鸞聖人のご恩に深く感謝し、そのご誕生をよろこびお祝いするのが降誕会です。

5月20日(土)・21日(日)の二日間は月忌参りをお休みさせていただきます。



# 八百二十七回 親鸞聖人降誕会



輪番 波多野 昭方

有珠山の噴火、春先の降雪等、小樽の地にも漸く春が訪れ、新緑の芽生を迎へ、小満の五月二十一日(日曜日)親鸞聖人の八百二十七回目の降誕会をおむかえ出来ませす事、大変嬉しく共々にお祝いいたしましょう。

親鸞聖人さまは承安三年(一一七三年)京洛日野の里にご誕生になり、九歳の時、慈鎮和尚のもとで、京都東山青蓮院(天台宗)で得度され、比叡山で天台宗の修行(勉強)され碩学の位にまで求道されましたが、とても自分の力で煩惱など断ち切れない現実の自己の姿に気づいたとき、厳しい修行や学問も出来ない私であると絶望の淵に立たれた時、「煩惱具足の凡夫」「地獄一定」と自覚され、其の解決を吉水の法然上人のお念仏のお勧めに出合われたのであります。

ここに親鸞聖人のご誕生の真の喜びが始ま

るのです。「そのまま来いよ、必ず救う、必ず仏にする」という阿弥陀如来の誓いと願いが、すべて自分のためにつけられたものであると「愚禿釈の鸞、建仁辛酉の曆、雑行をすてて本願に帰す」(一一〇一年)

罪悪深重の凡夫が、ただ一つ救われる道の開頭であります。浄土教では平生から臨終まで念仏を称え続け、臨終に仏の来迎を受け往生が定まる「臨終業成」説ですが、親鸞聖人は信心が決定したとき往生は定まり、正定聚の位に入れしめる、「平生業成」説です。「必ず救う」と仰せられた阿弥陀仏の本願を疑いなく受け容れる信心が起こった時、仏の来迎待つことなく、即得往生「本願に帰した」真の念仏者の姿です。私のおこした信心、なしえた信心ではなく、如来さまより廻施された大信心、賜わりたる信心なのです。

親鸞聖人がこの世にご誕生されなければ、私達が阿弥陀如来のすばらしい本願に出合うこともなく、「いたずらにあかしたずらにくらす」救くわれのない無意味な生涯を送らなければならぬと思うと身の毛弥立つ思いがします。聖人ご誕生の意義を改めて味あわせていただき、共に御縁をよろこばせていただきましょう。

合掌

## 八百二十七回 親鸞聖人 降誕会

◆場所 小樽別院本堂

◆日時

5月20日(土)

10:00 子供降誕会(幼稚園合同参拝)

10:30 宗祖降誕会

初参式(法要に引き続き)

法話(初参式に引き続き)

お楽しみ会(法話に引き続き)

12:00 お齋(うどん・おでん・お茶席)

14:30 子供ゲーム大会(若松一丁目会主催)

※受付にて記念品をお渡し致します。

※書・絵 展示(19日~20日)



3分間の心のともしび

TEL 27-1616

小樽別院テレホン法話

24時間いつでもどうぞ



# 連続 百日参拝の お知らせ

今年も例年の如く晨朝百日参拝を行います。皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませ。

☆5月1日(月)～8月8日(火)☆  
毎朝6時半から一時間程度です。

特に申し込みなどは必要ありません。  
お気軽にお参りして下さい。

## 初参式

子が生まれたらお寺へ参拝しよう

赤ちゃんの誕生は、両親や家族にとつて何ものにも代えがたい慶びの一つでしょう。人としてこの世に生を受けることは極めて得難いことであり、不思議としか言いようがありません。

このかけがえのないいのちがすくすくと育ってくれるように、また人間に生まれた慶びをかみしめつつ人生を力強く歩んでくれるようにと、親なら誰もが願うところです。

そうした我が子の人生の出発に当たって、けつして崩れることのない依り所となり、支えとなって下さる如来さまに参拝する事を「初参式」と言います。

初参式は、子にとつての人生の始まりの仏縁ですが、同時に親にとつても、親として生きる出発点であり、子によつて与えられた尊い仏縁です。

世間では、子が生まれて一カ月ほど経つと「お宮参り」といって、神社へお参りする人が多いようですが、残念ながらお寺へお参りする人は限られているのが現状です。日ごろ「私は門徒です」と言っている方でも、なかなかお寺に参ってきて



下さいません。これはどうしたことでしょうか。宮参りは、生後一カ月から三カ月のあいだに、神さまに成長を祈願にゆくなりわします。しかし、祈願したからと言って、神さまにまかせつ放しでは、その後の育児はおぼつかなく、むしろ親子として、心を合わせて人生を歩んでいくという親の姿勢が大切なのです。「祈願」は、その動機がいかなるものであっても、あくまで「いいことを期待する」という人間の煩惱から発せられるものです。

真宗の初参式は、一般に行われている宮参りと形は似ていても、内容的に大きく異なっていることを、このさいたしかめておかねばなりません。どうか初参式を人生にとつての大切な儀式だと心得ていたたきますように...

当別院では、今年も親鸞聖人の降誕会法要にひきつづき初参式をとりおこないます。

対象は、生後百日ぐらいから三歳までの幼児で式は短時間で終わります。記念品等も用意させて頂いておりますので、お気軽にお申し込み下さい。お申し込みは、別院寺務所(TEL 27-1616)または別院職員まで。

### ポイント

- 初参式は、人生出発に当たり如来さまに「あいさつする式」
- 「門徒なら、お宮参り」でなく、初参式にお参りを...

『仏事のイロハ』引用 参照

全葬連 加 盟 店  
全霊協

# 小樽典礼(株)

稲穂3-4-1 TEL 27-1801

21世紀のライフステージを創造する

特定建設業・一般建築士事務所



## 福島工務店

代表取締役社長 福島正紘

本社/小樽市若松1丁目7番18号

TEL (代) 23-3542

FAX 33-2442



# 十人十声

## ●気がついてみたら

西川 達恵



毎日生きていると色々なことがあります。楽しいこともあるけれど、いやなこともあります。

むしろ楽しいこと・嬉しいことより、いやなこと・苦しいことのほうが多いかもしれません。

野村康次郎さんの詩に『雨はウンコの上にもおちなければなりません イヤだといつてもダメなのです。だれもかわってくれないのです』というのがあります。

私の人生も、変わってあげることが、変わってもらうこともできません。

そして私の生活を振り返るとき、自己中心的な考え方で人に接しているようにも思います。

五十五年間教員をされ、お念仏を喜ばれた東井義雄先生の詩が心に響きます『何もしてあげることができなくてすみません』ポツリと そんなことをいう妻「なんにもしてあげることができなくてすみません」はこつちだ 着るものから たべるものから パンツの洗濯までしてもらってばかりで「なんにもしてあげることができなくて」いるのは こつちだ しかも 妻に「すみん」といわれるまで「すみんのはこつちだ」ということにさえ気がつかないでいた こつちこそ ほんとにすみん。もう一つ『孫が飼っている鬼の草 ハアハアいいな

がら 背負って帰る炎天の田んぼ道 腕で汗をふこうとしたら麦藁帽子が とんだ気がついてみたら 風が吹いていてくださったのだ 暑さはよくよくわかるくせに 風には気つかない 私 してやっていることはよくよくわかるくせに していただいていることには気つかない 私 すみません 南無阿彌陀仏。』  
おみりを聞かせていただくと私の姿が知らされます。

## ●知ることより感じる心を大切に

武藤 二孝



長かった冬も終わり春がやって来ますと、やはり嬉しくなってきました。

ある学校で、先生が生徒たちに、氷が溶けたら何になるとたずねますと、「水になる」と答えた人はほとんどですが、たった一人「氷が溶けたら春になる」と言った生徒がおりました。

「水になる」は知の世界、「春になる」は感性の世界、たしかに知も必要ですが、人生を真に豊かにするのは感性の世界でしょう。

私もそうですが、現代人は「感じる心」がうすらいでいるように思います。もっと感じる心を大切にしたいものです。

## ●一年をふりかえって

中島 賢潤



当小樽の地に着任いたしました。一年数ヶ月がたちました。今年の冬は、

日が続く、毎日雪かきの日が長く続きまして。つくづく厳寒の地と感じた次第です。二回目の冬を越して思いますが、小樽別院ご門徒さんのあたたかさ強く感じています。特に厳寒の季節には、お詣りの際、座ぶとんをストーブで暖かくしていただき、

部屋も暖房していただきありがたいと思っています。又、私が単身赴任ということで元気づけていただくご門徒さんが居られた事は、特に印象深いです。ご門徒さんの目くばり、気づかい、思いやりを受けとても感激いたしました。

## ●「命の尊さ」

村上 隆昌



四月といえば、新入学・新学期・新採用等、さまざまな所で“新”のつく事が多いように思

います。私達は、目先の事に心をうばわれて生活をしていきます。外側ではなく少しでも心の中(命)という内側に目を向け、もう一度見つめなおしたいものです。一人の命の上には、二人の命。二人の命の上には四人の命、四人の上は八人：十六人：三十二人：命の積み重ねが仏縁を深めていくのではないのでしょうか。尊い命のおかげによって、私一人の命が生ずっています。命を大切に、孫子の代まで伝えていく事が求められている現代ではないかと、別院に奉職させて頂いている毎日の中で感じさせて頂いております。

## ●人間と機械、どっちが必要？

磯村 真一



別院にコンピューターが入ったのを、みなさんはご存じでしたか？お彼岸の時にコンピューター

に詳しい梶さんが、本堂で操作していたのですが…。実は、私もコンピューターにハマっています。

るんですよ。法務が終わって時間があくと、近くにある電気店(大型店の3階へ、掘り出し物を探しに出かけます。(懐は寂しいけど)「コンピューターが好き!」と言うと、詳しいだろうと思われるかもしれませんが、それが全くのド素人!!!。先日、自宅で使用しているコンピューターのハードディスク(記憶装置)が故障して、コンピューターそのものが動かなくなりまして。ハードディスクの中身をすべて削除し、一から設定しなおせば元のように動くようになるのですが…。

「操作はとても簡単で、お部屋に設置したその日からすぐに使えます!」コンピューターを購入する際に店員さんからこのような説明を受けて、即決したのがそもそもその間違いでした。確かに、自分のやりたいことは最初からすぐに使えるように設定がしてあって、面倒なことは一切なくていいようになっていきます。が、故障して設定しなおすとすると、もう一大事。(実は私、全くのメカ音痴なんです!!!)

それでも今は、なんとかコンピューターを使えて?いますが、技術がもつと進んで逆に私がコンピューターに使われるのもそう遠い話ではないかと、思います。月参りに僧侶ではなくコンピューター搭載のロボットがお伺いすることになったら、みなさん、どーします?

## ●「合掌の心」

梶 純信



先日手に入れました、豊島学由という先生の本の中に興味をひかれる文章がありました。それは

次のようなお話です。「合掌はあなたに従いますという姿です。無抵抗を意味します。だから合掌は世界共通です。人間のもつとも正しい姿です。そ



の合掌をくずしたら人間は何をするかわかりません。争いは決して合掌したままではできないんです。そして、人間は、握るものによってどんなことをするかわかりません。動物がこわいどころか、人間のこの手に握られたものによって、一番恐ろしい生き物になるのです。」

●きてみませんか？

温井 卓生



毎月、月忌のお参りをしているのですが、ある御門徒さんの家へお参りにいった時のこと、おつ

とめも終り御門徒さんとお話をしていたのですが、ひよんな話から仏教の話になり、話しを聞いていると私達僧侶が、びっくりするくらいお経の言葉や親鸞聖人の言葉をしっておられました。熱心な方だと思ひ、毎月ある常例法座のことを御案内すると、「ぜひ行きたいです。」といっておられました。後日お参りに行くと、とつても為になりましたといっておられました。みなさんも、毎月の常例法座にきてみませんか。

●「仏教とは」

日野 尊行



「仏教とは何ですか」と問われてみなさんはどう答えますか。このことが解っていないと普段のお参りもスタートから間違っていることになる

ります。善導大師は「仏教は、たとえてみれば、鏡のようなものである。いつもその書を読み、その心をたずねて行くと、思いもかけない自分自身の姿がはつきりしてく

る(知慧を開発す)」と教えられました。私達が「仏法がよく分かるようになりました」というのは、難しい仏教語の意味が分かり、仏典についての知識が豊富になりましたという事でしようが、本当は、仏法がよく分かったということは、言い換えれば「私という人間がよく分かりました」ということなのです。私達はよく色んな物事や他人のことを、あれは良くて、あれは悪い、あれは必要で、あれは不要だなどとよく言います。しかし、そういうことを言う人の中に、自分は良いのか、悪いのか、必要なか、不必要なのかと問うてみる人は、一体何人いるのでしょうか。

みなさんがお参りするのは、先祖供養の為ではなく、その先祖の方々が、わざわざみなさんを仏前に立たせて、「仏教は鏡なのだから早く自分を写しなさい」と語りかけて下さっているのです。自分を鏡に写すことが出来るのは人間だけです。鏡を目の前にして、その写っているのが自分とも知らず、キヤーカーわめいている猿になつてはいませんか？

●一年目の冬

村田 法道



ここ小樽に来て、1年がたちます。右も左もわからない私は現在も、皆様に御心配ばかりおかけ

してあります。特に吹雪の月忌参りの時、たびたび車が脱輪しました。なんとかと気がつき脱出しようとするのですが、よけいに車が沈むばかり、私一人ではどうすることもできなくなりました。そんな中近所の方々が集まって一身になって吹雪の中助けて下さいました。なんとか皆様のおかげもあって脱出に成功。私がお礼を申しあげると「お互いさまだから」と一言。又別の車の救出にいかれました。私は、この厳しい寒

さの中で何か教えていただいたような気がします。今後2年目3年目とご心配ばかりかけると思いますが、宜しくお願いいたします。

●風邪・冷え症にはねぎ？

相馬 早苗



長かった冬も終り、まことに待った春がやってきました。やはり、春になつても寒かったり暖かくなつたりと、気温の変化が激しく、風邪の

ひきやすい時季でもありますね。そんな時、ねぎが効果的です。

ねぎは、体を温め、発汗作用があるのです。ねぎの葉の部分には、粘膜の健康を守る栄養素と抗菌作用のあるビタミンCがたっぷり含まれており、白い部分には、ビタミンCのみが含まれています。

ですから、風邪の予防には葉の部分を、寝込んでしまった時には、体を温め、発汗作用のある白い部分を多く食べるように使い分けができます。

このような理由により、風邪だけではなく、肩こりや疲労回復、神経を鎮め、体調を整えたり、そして夏バテ、眼精疲労にも役立ちます。

何といつても、バランス良く何でも食べることが大切ですが、陰の野菜と思つていたねぎが、こんなにたくさん役割を持つていたとは、驚きです。ぜひ風邪にはねぎを。

●「ゴミ問題」

渡部 恵



4月1日から、小樽もついに半透明のゴミ袋になります。

本州の方では、すでに半透明のゴミ袋が使われているのに対し、小樽は少し遅いと思われました。

去年の暮れに、ダイオキシンの問題が話題になりましたが、まさか小樽が(人口が少ない割に)日本で一番ダイオキシンが多いとは驚きました。しかし、驚いた反面、今までゴミ問題に対してあまり関心を持たずに生活をしていたという事が解りました。

今後、一人一人がしっかりとゴミ問題に対し認識を持ち、住む町をきれいにし、生活しやすくするのが、これからの課題なのではないかと思ひます。

私も、出来る限りゴミ問題に対し意識し、小樽が住みよい町になればいいと思ひます。

2000年(平成12年)年回表

1	周忌	平成11年
3	回忌	平成10年
7	回忌	平成6年
13	回忌	昭和63年
17	回忌	昭和59年
25	回忌	昭和51年
33	回忌	昭和43年
50	回忌	昭和26年





## ご案内

### お 晨 朝

毎日 午前6時30分

### 常 例 布 教

毎月7日～11日 午後1時30分  
13日～16日 午後1時30分

### 仏教青年会

毎月1回 午後7時30分

### 仏教婦人会

毎月27日 正午(おときあり)

### 仏教壮年会

毎月6日 午後7時

### おつとめしま専科!

毎月2回(火曜日) 午後2時

### ボーイスカウト

毎月1回(土曜日) 午後2時

### 日曜仏教講座

毎月1回(第3日曜日)  
午前9時30分

### 十 九 日 講

毎月19日 正午(おときあり)

### 各説教所の案内

- 奥沢説教所  
樹心会 5日 午後7時  
唯信講 10日 正午
- 若竹説教所  
彰心会 7日 午後7時
- 緑説教所  
無量講 9日 午後6時
- 新光説教所  
法友会 13日 午後6時

# カブスカウト 募 集!

何でも話しあえる友達をつくろう。

活 動/毎月1回 土曜日 午後2時～4時  
内 容/文化しせつの見学、お泊り会、運動会。  
小学校2年生から5年生の男子、女子を  
大募集!ぜひ連絡下さい。

TEL 22-0744 担当 温井、村田

# 仏教青年会 会員大募集!

● 活動内容/文化活動、ボランティア  
月1回例会(金曜日)  
各種レクリエーション(ボーリング、カラオケ、スキー等)  
10代、20代の男女を待っています。  
ぜひ気軽によってください。

連絡 TEL 22-0744 担当 日野、村田

# おつとめ しま専科!

親切! 丁寧!! わがりやすい!?

対 象/どなたでもどうぞ。  
費 用/特に必要なし!  
日 時/月2回の火曜日午後2時  
お問い合わせ/今すぐ別院の磯村まで...